

工房オンセは別府市より車で30分ほど入った山里にあります。回りは緑に囲まれ、自然の恵みがいっぱいの中で手作りの伝統工芸品である、ハンドバッグや花籠、盛り皿、ランプ等の作品作りに精を出している職人集団です。大分県は日本一の真竹の生産地です。伸びが良く柔らかい真竹は竹工芸品に適しており、特に細かい細工と強度を要求されるハンドバッグには欠かせないものです。工房オンセの作品には私の名前の雅人から一文字取った、「雅」の銘を彫っています。これは真竹で編んだ国産手作りの作品である証です。現在、全国の有名デパートやギャラリー等で展示会を開催し、たくさんの方々にご愛顧いただいています。また今年も皆様のお近くで展示会などを開催した時はお気軽にお立ち寄り下さい。

ホームページができました。

<http://take-once.com>

竹細工、竹バッグ、竹箸、竹小物など 国産竹製品にこだわった竹の専門ページです。私の工房がある所は山間部でインターネットの環境も大変悪く、未だに電話回線しかありません。ADSLもケーブルも当然光通信なんか何時のことだろう？そんな中での、まずは第一歩。自分でホームページを作ってみることにしました。最初は専門のデザイン会社をお願いしようと思ったのですが、綺麗ではあるがまとまり過ぎていて面白くない、自分の言葉で自分の表現で伝えたい、頻繁に更新していきたい。そんな訳で慣れないパソコンソフトと写真を撮るためのスタジオセットなどを買い込み、商品撮影をしています。高額な竹製品ばかりでなく、お箸やテーブル小物などもありますので是非見て下さい。

お奨め商品 その1 名入れ箸「由布」1050円
あなたの名前、プレゼント相手のお名前、彫ります。大切な方へ、毎日使うお箸のプレゼント！父の日、母の日、お祝いの日！あなたの心をこめて！
このお箸を掲載するに当たってもみんなで喧々ゴウゴウ、「手作り箸にはやはり手彫りで名前を彫らなくては！」「機械で彫ったら、小学校の入学式用品みたいになる！」「他の所が良いなと思ったら直ぐに真似できる！」などなど、特徴を出すことの大切さを感じています。
最近特に中国製品を平気で国産品のような見せ方で販売しているサイトが多いので、一石を投じて見たいですね。

2007年 上半期催事予定 お近くの時は是非会場に遊びに来て下さい

デパート催事

1月24～30	松坂屋本店（九州展）	5月中旬	相模原伊勢丹（職人展）
2月21～26	新宿伊勢丹本店（大九州展）		
3月14～20	横浜高島屋（九州展）	ギャラリー催事	
3月21～28	宇都宮東武（九州沖縄物産展）	3月31～4月8	市原市「手作りの心砂田」
4月11～16	京都伊勢丹（職人展）	5月19～25	北九州市「さん手」
4月11～17	浜松遠鉄百貨店（九州展）	5月26～31	金沢市「さかい」
4月18～24	難波高島屋（手作り展）	6月7～13	宇佐市「茶房 椿庵」
4月下旬	千里阪急（日本の職人展）	6月22～7月2	三重県「器 椿庵」

別府竹細工は日本が世界に誇れる工芸品と自負しています。昨年2月にはミラノ・パリ・フランクフルトの3箇所を回り、海外調査をしてきました。昨年の11月にも2回目のミラノ訪問をして今年11月15日より1週間ミラノの「ガレリア・デル・オルソ」で別府竹細工5人展をすることになりました。 <http://once.blog.ocn.ne.jp/ajimu/cat5033158/index.html> このミラノでの出来事はブログに載せていますので見て下さい。

海外で展示会をする時は日本でする時より10倍以上、時間と労力とお金が掛かります。言葉も地理も情報もない我々が海外にこのこ出かけていっても上手くまとめることはできないでしょう。今回はミラノに村山さんという日本人のデザイナーが現地での協力をして下さったお陰でなんとか開催する目処が立ちました。11月に向けて作品作りはもちろんの事、カタログ製作、飾りつけ、ビデオ製作、招待状、オープニングパーティーの手配、マスコミ関係へのPR、関税の問題、作品の運搬などすることは山積みされていますが、そんな追われる様な毎日が後で振り返ると楽しい人生の思い出になるのでしょうか。

研修旅行

毎年行っている研修旅行。今年は竹の業種から離れて佐賀県の窯元を見学させていただきました。最初に伺ったのは伊万里市にある「福衛門窯」伝統的な色絵付け、染付けなど手書きにこだわった工房である。2代目の福山さんとはデパートの催事でよくご一緒させて頂き柔和な表情が印象的な方だ。次に訪問したのは有田の窯元で南蛮船や異人のキャラクターで有名な「青花」ここの工場長の橋口さんとも以前から懇意にさせて頂いている。整然と整頓された工場内は何回来ても美しい。どちらの窯元も手書きにこだわってお客さんを掴んでこられた。私たちも国産竹細工にこだわった完成度の高い作品を作り続ける事でしか生き残って行けれないと感じさせられる。お互い、業種は違いますが、これからも真摯に作品に向かっていくことでお客様の信頼を積み上げて行こうと思います。



竹の道具2 竹割り包丁・菊割り

一番よく使う道具はやはり、竹割り包丁です。竹に割り込みを入れたり、剥いだり、割ったり、荒仕事のほとんどはこの包丁1本で済ませてしまう。私の使っている包丁は熊本県湯前町の鍛冶屋さんで作って頂いた物だが、もう20年近く使っている。未だかつて一度も刃こぼれをしたことのないお気に入りの包丁である。刃が硬すぎてもダメで、しかし、柔らかすぎても直ぐ切れ上がってしまうので良くない。菊割りという道具は竹細工特有の道具である。竹というのは繊維が通っているので刃物で割っていくと言うより、バランスで割っていくものである。2つに割るより6等分とか8等分に力を分散させたほうが綺麗に割れる。上から見た形が菊の模様に見えるのでこの名前がついた道具です。



大分県宇佐市安心院町萱籠1167 竹工房 オンセ

Tel 0978-48-2027 Fax 0978-48-2070

<http://take-once.com> Email takae@cronos.ocn.ne.jp